

Ⅱ. 2020年日本透析医学会統計調査報告書 調査結果と考察

第1章 2020年慢性透析療法の現況

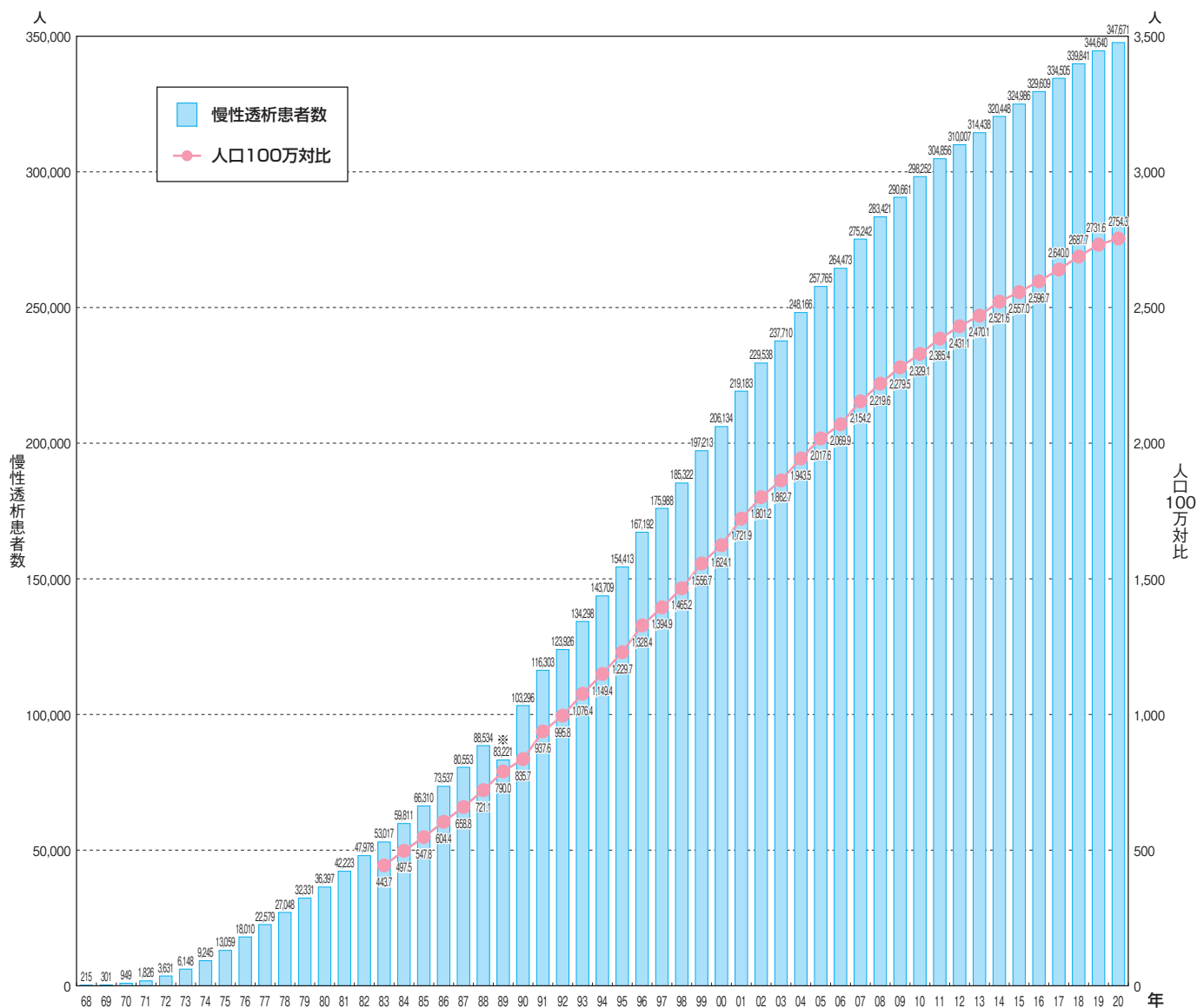
1. 施設動態

2020年の調査は、全国4,493施設を対象に実施された。施設調査票は4,437施設から回答が得られ、回答率は98.8%と例年とほぼ変わらない数字であった。施設調査票の回答施設数は2015年にいったん減少したが、2016年からは再度増加に転じ、2020年は2019年と比較し26施設増、0.6%増であった（表1）。患者調査票は4,271施設から回答が得られ、回答率は95.1%であった。患者調査票の回答率は2015年調査以降、96%前後から95%前後に低下した。この低下に、2015年に行った匿名化強化と紙媒体調査の廃止が影響した可能性がある。ただその後は95%前後を維持している。対象施設の透析コンソールは143,772台、同時透析可能人数は141,752人、最大収容能力は472,531人であり、それぞれ2019年末と比較して、1.6%、1.4%、1.7%の増加であった（表1）。透析コンソール台数は、年々増加している（補足表1）。

表1 わが国の慢性透析療法の要約，2020

調査対象施設数		4,493施設（6施設増 0.1%増）		
回収施設数		4,437施設（26施設増 0.6%増）		
設備	透析コンソール台数	143,772台（2,252台増 1.6%増）		
能力	同時透析能力	141,752人（1,913人増 1.4%増）		
	最大収容能力	472,531人（7,916人増 1.7%増）		
慢性透析患者		347,671人（3,031人増 0.9%増）		
※慢性透析患者の総数は、施設調査票 患者総数欄の合計であり、患者調査票より算出した透析歴別患者数の合計とは必ずしも一致しない。				
人口100万対比		2,754.3人（22.7人増）		
治療方法		通院	入院	合計
血液透析等	血液透析（HD）	149,082（47.0%）	22,242（72.5%）	171,324（49.3%）
	血液透析濾過（HDF）	155,782（49.1%）	8,043（26.2%）	163,825（47.1%）
	血液濾過（HF）	10（0.0%）	4（0.0%）	14（0.0%）
	血液吸着透析	1,369（0.4%）	50（0.2%）	1,419（0.4%）
	在宅血液透析	750（0.2%）	1（0.0%）	751（0.2%）
腹膜透析等	腹膜透析（PD）	7,916（2.5%）	272（0.9%）	8,188（2.4%）
	PD+週1回HD(F)等との併用	1,839（0.6%）	43（0.1%）	1,882（0.5%）
	PD+週2回HD(F)等との併用	161（0.1%）	4（0.0%）	165（0.0%）
	PD+週3回HD(F)等との併用	30（0.0%）	1（0.0%）	31（0.0%）
	上記以外の併用	65（0.0%）	7（0.0%）	72（0.0%）
小計		10,011（3.2%）	327（1.1%）	10,338（3.0%）
2020年末透析患者総数		317,004（100.0%）	30,667（100.0%）	347,671（100.0%）
2020年末透析患者のうち、夜間透析患者数		31,468人	（559人減）	
2020年 新規導入患者数	HD(F)等で新規導入	38,263人		
	PDで新規導入	2,481人		
	合計	40,744人（141人減 0.3%減）		
2020年透析患者死亡数		34,414人（228人減 0.7%減）		

（施設調査による集計）



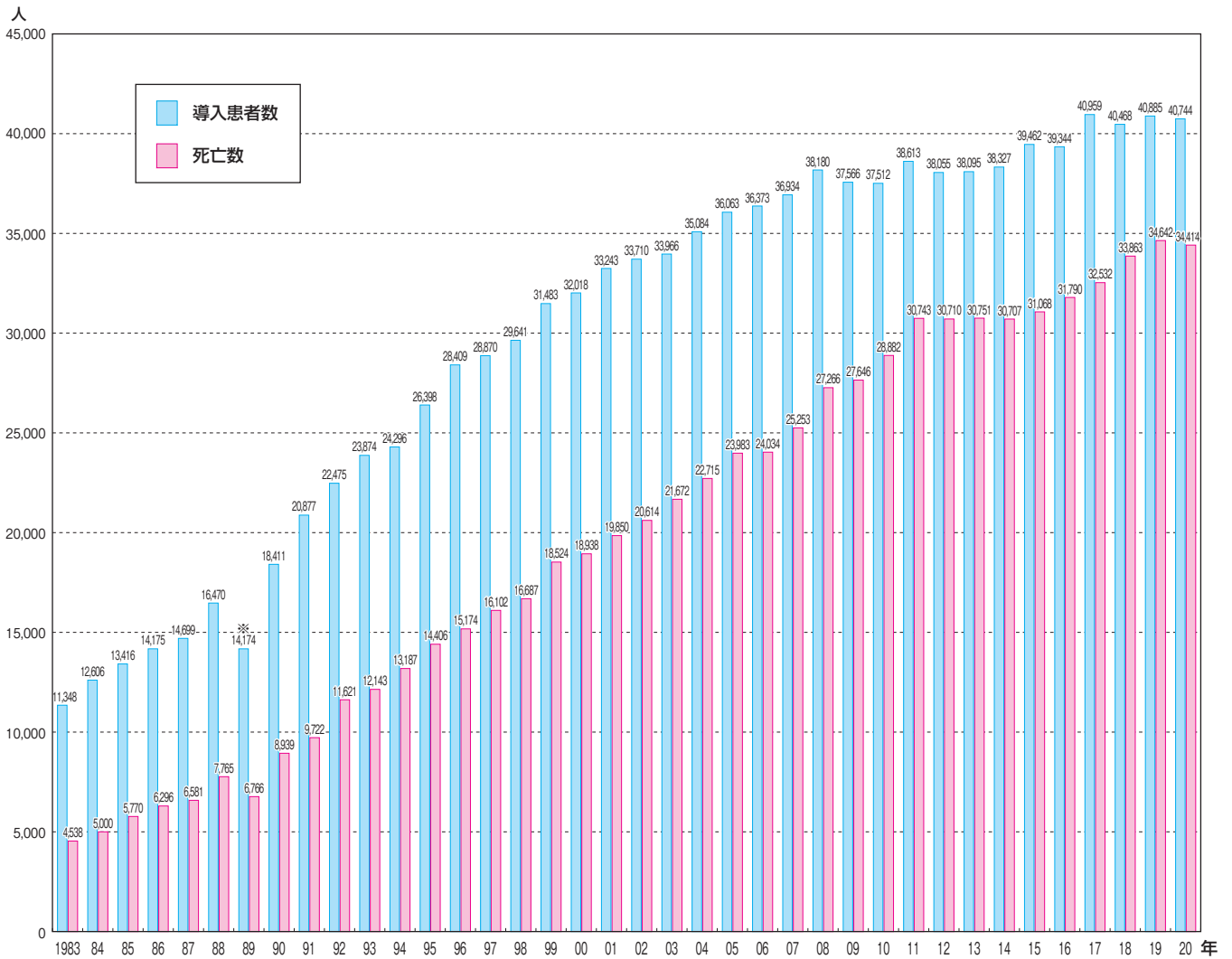
※1989年末の患者数の減少は、当該年度にアンケート回収率が86%と例外的に低かったことによる見掛け上の影響である
人口100万対比は回収率86%で補正

図 1 慢性透析患者数（1968-2020）と有病率（人口100万対比，1983-2020）の推移

（施設調査による集計）

2. 患者動態

施設調査票に基づく2020年末の慢性透析療法を受けている患者総数は347,671人であった。これは透析治療を受ける慢性腎臓病患者の有病数（prevalence）を表している。透析患者数は年々増加傾向であったが、近年患者数の伸びが鈍化している。2020年は前年比3,031人増であった（図1，補足表1）。2012年に中井ら⁷⁾により行われた透析患者数の将来予測では、2021年の約34万9千人をピークに患者数が減少すると予測されている。人口100万人あたりの透析患者数は有病率（prevalence rate）を示す（図1，補足表1）。この有病率は年々増加傾向であり、2020年は人口100万人あたり2,754.3人で、国民363.1人に1人が透析患者であることになる。米国腎臓データシステム（United State Renal Data System: USRDS）によれば、日本の透析患者の有病率は台湾に次いで世界2位である⁸⁾。



※1989年末の患者数の減少は、当該年度にアンケート回収率が86%と例外的に低かったことによる見掛け上の影響である

図2 導入患者数および死亡患者数の推移，1983-2020

(施設調査による集計)

新規透析導入患者数は透析療法を受ける慢性腎臓病患者の罹病数（incidence）を表している。この数は2008年までは毎年増加していたが、2009年以後は増減を繰り返している。2020年は40,744人で、2019年より141人減（0.3%減）であった（図2、補足表2）。このうちHD（F）等での導入は93.9%，PDでの導入は6.1%であった（表1）。一方、各年の死亡患者数も年々漸増傾向である。2012年から2014年までは一旦ほぼ横ばいとなったが、2015年以降再び漸増傾向となった。2020年の死亡患者数は34,414人で、前年と比べ228人減（0.7%減）であった（図2、補足表2）。一般的に、前年度の患者数に導入患者を加え、死亡患者を差し引いた数が当該年度の患者数と考えられる。しかし、移植による透析離脱患者が含まれないことや、導入患者数を過大評価したり死亡患者数を過小評価したりしている可能性があり、計算上の患者数と実際の患者数は一致しない。

都道府県別の透析患者数を表2に示す。表中の都道府県集計は、患者居住地ではなく施設所在地による集計であるため、厳密に都道府県別の患者動態を反映していないことに注意が必要である。有病率（人口100万人あたりの透析患者数）は、地域によりかなり異なる。これらの地域差には非常に多くの因子が複雑に交絡しているため、都道府県の比較は慎重に行われなければならない。

表2 都道府県別の透析患者数および治療形態，2020

都道府県名	調査対象施設数	施設調査票回収施設数	血液透析等					腹膜透析等					計	人口100万あたり患者数
			血液透析(HD)	血液透析濾過(HDF)	血液濾過(HF)	血液吸着透析	在宅血液透析	腹膜透析(PD)	週1回のHD(F)等との併用	週2回のHD(F)等との併用	週3回のHD(F)等との併用	上記以外の併用		
北海道	261	258	7,535	8,167	0	105	10	442	103	2	1	5	16,370	3,130.6
青森県	41	41	1,185	2,346	0	3	3	87	13	1	0	1	3,639	2,937.0
岩手県	44	43	2,225	843	0	11	0	54	14	0	0	1	3,148	2,599.5
宮城県	66	66	3,583	2,359	0	17	7	191	26	1	0	0	6,184	2,685.2
秋田県	41	41	1,274	862	0	0	2	45	3	0	0	0	2,186	2,277.1
山形県	35	35	1,407	1,283	0	6	12	64	7	1	2	0	2,782	2,602.4
福島県	73	71	2,375	2,774	0	19	0	58	22	10	0	0	5,258	2,867.0
茨城県	87	87	5,109	3,219	0	53	18	67	16	0	0	0	8,482	2,956.4
栃木県	81	81	3,434	2,978	0	25	11	161	16	3	0	1	6,629	3,427.6
群馬県	63	63	3,782	2,369	1	7	12	74	13	0	0	0	6,258	3,225.8
埼玉県	197	195	7,902	11,199	0	50	76	352	88	6	2	0	19,675	2,678.0
千葉県	159	156	7,962	7,657	1	34	13	267	67	4	1	0	16,006	2,545.9
東京都	445	441	14,381	17,620	0	129	113	955	296	13	1	13	33,521	2,383.3
神奈川県	271	268	11,509	9,814	0	119	34	592	126	4	3	8	22,209	2,403.6
新潟県	53	52	3,298	1,698	0	21	3	160	26	2	0	2	5,210	2,366.0
富山県	42	42	1,727	729	0	16	3	80	16	1	2	3	2,577	2,487.5
石川県	41	41	1,606	1,113	0	19	5	64	7	0	2	0	2,816	2,485.4
福井県	27	25	871	787	0	0	3	54	15	0	2	0	1,732	2,258.1
山梨県	33	33	1,106	1,242	0	6	2	19	10	0	0	0	2,385	2,944.4
長野県	72	72	2,860	2,428	3	6	13	80	13	3	0	1	5,407	2,637.6
岐阜県	74	74	2,960	2,120	0	16	24	81	19	1	0	0	5,221	2,636.9
静岡県	129	127	4,427	6,695	0	28	24	158	23	2	0	1	11,358	3,124.6
愛知県	198	197	9,612	8,627	1	55	47	576	135	23	1	0	19,077	2,528.1
三重県	56	53	2,406	1,662	0	16	8	88	17	0	0	3	4,200	2,371.5
滋賀県	40	39	1,407	1,706	0	32	38	146	14	0	1	0	3,344	2,364.9
京都府	79	77	2,735	3,527	0	55	14	169	54	7	2	1	6,564	2,544.2
大阪府	325	320	10,083	13,303	0	155	53	465	100	8	0	4	24,171	2,733.3
兵庫県	201	196	6,871	7,266	1	88	69	168	34	8	0	0	14,505	2,652.2
奈良県	52	52	1,698	1,799	0	26	7	95	29	0	0	0	3,654	2,757.7
和歌山県	47	47	2,173	830	1	17	31	66	13	0	0	0	3,131	3,392.2
鳥取県	26	25	481	996	0	4	2	59	9	3	0	0	1,554	2,805.1
島根県	30	30	638	1,062	0	4	3	65	8	1	0	0	1,781	2,650.3
岡山県	65	65	2,386	2,760	0	27	6	206	25	4	2	0	5,416	2,865.6
広島県	100	98	3,710	3,735	5	38	26	232	59	26	3	1	7,835	2,797.2
山口県	59	56	1,673	1,881	0	4	1	105	26	9	0	0	3,699	2,754.3
徳島県	40	40	1,258	1,429	0	10	5	74	88	3	1	2	2,870	3,986.1
香川県	50	50	1,141	1,443	0	7	7	122	62	3	0	0	2,785	2,928.5
愛媛県	53	53	1,858	2,105	0	12	0	116	31	1	0	5	4,128	3,089.8
高知県	39	39	750	1,808	0	6	0	11	3	3	0	1	2,582	3,731.2
福岡県	200	197	8,912	5,952	0	53	21	655	55	0	0	1	15,649	3,045.1
佐賀県	37	37	1,628	969	0	12	4	26	7	2	0	2	2,650	3,263.5
長崎県	64	63	2,346	1,513	0	24	8	108	17	1	2	1	4,020	3,061.7
熊本県	92	91	4,171	2,274	0	27	4	111	32	2	1	3	6,625	3,809.7
大分県	69	68	2,691	1,241	0	15	4	96	41	5	0	1	4,094	3,639.1
宮崎県	66	64	2,769	1,136	0	7	0	45	5	1	0	1	3,964	3,704.7
鹿児島県	96	95	3,462	1,881	1	16	2	157	43	1	1	8	5,572	3,506.6
沖縄県	74	73	1,947	2,618	0	19	3	122	36	0	1	2	4,748	3,234.3
合計	4,493	4,437	171,324 (49.3)	163,825 (47.1)	14 (0.0)	1,419 (0.4)	751 (0.2)	8,188 (2.4)	1,882 (0.5)	165 (0.0)	31 (0.0)	72 (0.0)	347,671 (100.0)	2,754.4

(施設調査による集計)

3. 透析治療形態

2020年の透析治療方法の全体に占める各透析治療形態の割合は、血液透析(hemodialysis: HD)は49.3%、血液透析濾過(hemodiafiltration: HDF)は47.1%、血液濾過(hemofiltration: HF)は0.004%、血液吸着透析は0.4%、在宅血液透析(home hemodialysis: HHD)は0.2%、腹膜透析(peritoneal dialysis: PD)はHD併用を含めて3.0%であった(表1)。2012年の診療報酬の改定以降HDF患者数は急激に増加しており、2020年は163,825人に達した。HDF療法の内訳は、患者調査票でみると、On-line HDFが70.0%、次いでIHDFが28.3%となっている。ここ数年は特にIHDFの患者割合が増加傾向である(図3、補足表3)。一方、PD患者数は10,338人と昨年の9,920人から増加し、そのうち20.8%がHD(F)との併用療法であった。HHDの患者数は751人と横ばいであった。PDとHHDを足したわが国の在宅透析の合計の比率は3.2%であり、これらは先進諸国の中では最も低い部類に入る⁸⁾。都道府県別の治療形態にもまた地域差を認めたが、医療事情などさまざまな因子による影響を受けると考えられる(表2)。

2020年の夜間透析患者数は31,468人であった（表1）。夜間透析患者数は2014年調査までは41,000～42,000人で推移してきたが、2015年は33,370人と急激に減少した。これは2015年調査において、夜間透析患者の定義を「保険で認められる時間帯（午後5時以降開始もしくは午後9時以降終了）の透析です。」と追記したことが影響した可能性がある。2015年以降も全体的には減少傾向を認めている。

